

ケチャップ、マスタードを入れるのだ。手回しのハンドルをぐるぐる回すと、みじん切りのオニオンがボロボロ出てきた。それをてんこ盛りにする。

最終回、Giantsの抑え Robb Nenn がマウンドに立った。時速 95 マイルをぼんぼん投げ込んでくる。最後の 1 球は総立ちのスタンディング・オベーション。これを新庄が無難にキャッチして試合終了。まさにアメリカンな一日。

## Quarter [kwɔːtər] クォーター

アメリカの度量衡は複雑極まりなく思える。重さが pound ( lb ) ounce ( oz ) で  $1 \text{ oz} = 1/16 \text{ lb}$ 。長さが inch, foot, yard, mile で、 $1 \text{ ft} = 12 \text{ inch}$ ,  $1 \text{ yd} = 3 \text{ ft}$ ,  $1 \text{ mile} = 1760 \text{ yd}$ 。体積が fl. oz., pint, quart, gallon で、 $1 \text{ pt} = 1/8 \text{ gal}$ ,  $1 \text{ qt} = 1/4 \text{ gal}$ 。他にも摂氏ではなく華氏。慣れない僕らはこれだけでお手上げだ。

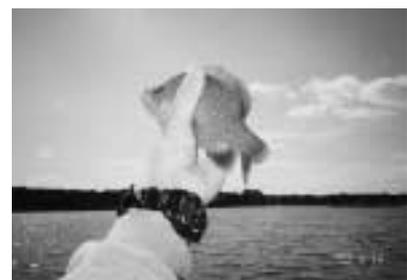


ここで話題にしたいのは米国の硬貨だ。25 セント (クォーター) というコインがある。これがどうにも不可解で仕方がなかった。日本型のお釣りのもらい方が通用しないのだ。日本なら 76 円の買い物で、財布の小銭を少なくするために 100 円と 5 円と 1 円を 1 枚ずつ出す事がある。 $106 - 76 = 30$  円のお釣り。10 円玉 3 枚の受け取り。だが、ドルでは? 76 セントの買い物で 1 \$ と 6 セント (nickel と penny 1 枚ずつ) を出す。するとお釣りは 30 セント。お釣りは quarter と nickel。つまり払ったはずの nickel が、そのまま (!) 戻ってきてしまうのだ。

ところで、十進法の規格からはずれて見える異端児のクォーター。これが、自販機、パーキングメーター、コインランドリーで大活躍。\$1 紙幣をクォーターに両替する機械もある。便利に思える 50 セント硬貨は不人気で消滅した。知人のアメリカ人は、クォーターこそ "versatile!" と誉め称える。彼女はそれを 'quarter bowl' に貯めて用立てる。最近では The 50 State Quarters® Program まで出現した。時間を聞けば "It's quarter to ten". アメフトでも攻撃の要となる quarterback。'quarterly report' に 'quarterly earnings'。まさにクォーターの概念は「米国人の美意識」の産物だ。

## Rod [rɔd/rɔd] = fishing rod 釣りざお

キャスト (cast) していきなりだった。ロッド (rod) がしなる。ずっしり重い感覚。ライン (line) が走る。興奮を抑えて慎重にリール (reel) を巻き上げる。そして無事ランディング! 初ヒットはギル (bluegill) だ!! 注意深く釣り針 (hook) をはずしてリリース (release)。浮き (bobber) と錘 (sinker) を点検してからミミズ (worm) をつけ直す。日曜日の静かな午後、湖畔でのひとときだ・・・



ミネソタの州名は Native American (\*) の minisota (空色の水) という言葉に由来する (米国 50 州のうち約半数は Native American の言語が起源)。ミネソタ州の車の license plate のキャッチコピー (10,000 lakes) も有名だが、実際には 1 万 2 千を超える数とか。湖を汚染から守るため、家庭排水は浄化处理しているが、それでも殺虫剤 (pesticides) や除草剤 (herbicides)、化学肥料 (fertilizers) による汚染は深刻になっている。

帰国後、9 月 19 日付の新聞を読んでいて、こんな記事にぶつかった。「強い毒性を持ち、撥水剤・界面活性剤・難燃剤などに使われる有機フッ素化合物 PFOS (perfluoro octanyl sulfonate) による汚染が、日本各地の海や湖沼で広がっている。PCB やダイオキシンと違って水に溶けるのが特徴。環境中でほとんど分解されず、生殖障害との関連や発ガン性